

III 終戦、戦後

昭和 19 年末から東京を始めとする全国の都市への空襲が本格化し、20 年 3 月の東京大空襲を境に住宅密集地への無差別絨毯爆撃が実施されるようになった。戦地だけでなく銃後の人々も死と隣り合わせの生活となった。

昭和 20 年 8 月 15 日に終戦を迎え、戦地や疎開先から家族が戻るなど、人々の生活は徐々に落ち着きを取り戻していった。しかし、なかには終戦後も戦地に行った家族の安否が確認できない人もいた。終戦を迎えた人々の思い、そして戦後の混乱期から復興へと向かう様子を紹介する。

1 家族の安否（空襲、戦死の報告）

空襲が激化するなか、銃後の人々も死と隣り合わせの生活となった。離れて暮らす家族は、空襲の様子やお互いの安否を手紙で確認しあった。

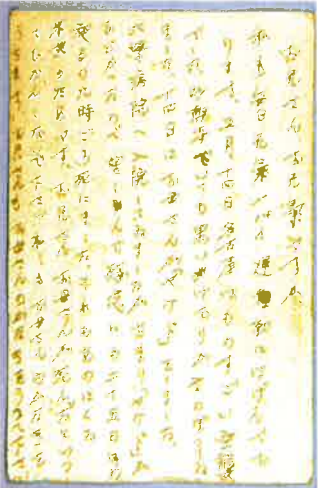

2 終戦

昭和 20 年 8 月 15 日の正午、戦争の終結が「玉音放送」によって国民に伝えられた。終戦を知った人々の思いは、日記や手紙にどのように記されたのか。

3 復興に向けて

戦争が終わり、日々の空襲におびえることはなくなったが、急激なインフレなどにより経済は混乱し、戦中からの食糧不足もさらに深刻なものとなり、人々の生活は苦しいものであった。しかし、戦地や疎開先から家族が戻り、人々の生活は徐々に落ち着きを取り戻していった。

資料例：空襲の様子を知らせる手紙、戦死の状況を伝える手紙、終戦の日の作文、
抑留先からの手紙、

	
<p>はがき 三栗政子さんが兄の一雄さんに送ったもの。母親が空襲で死んだことを伝えている。</p>	<p>はがき 10 年ぶりに教師と生徒が集まり、疎開地を再訪した後、教師が発案者の生徒に送った礼状。</p>
<p>昭和 20 年(1945)5 月 31 日</p>	<p>昭和 29 年(1954)9 月 4 日 (消印)</p>



Ⅳ 戦中・戦後の夏休みの日記

夏休みの宿題とされることが多い日記。戦中・戦後の子どもたちの夏休みの様子を日記等で紹介する。

Ⅴ 伝え残したい記憶

平成21年1月10日から4月30日にかけて、「絵手紙で伝えたい戦中・戦後の記憶」と題し、主催：昭和館、共催：日本絵手紙協会で絵手紙を募集した。募集期間中、57歳から91歳の方まで161名もの方からご応募いただき、応募総数は391点にのぼった。

家族の出征、食糧事情、学校生活、空襲体験など、体験者だからこそ描ける戦中・戦後の生活、後世代の人々に伝えていかなければならない想いが記された応募絵手紙を紹介する。

	
<p>齋藤正志 (宮城県 68才)</p>	<p>本多和子 (埼玉県 70才)</p>

イベント

会期中、下記の日程でイベントを開催します。

○講演会「シベリアに父を訪ねて」講師：松島トモ子（女優）

日時：平成21年8月23日（日） 14:00～15:30

※当日13:00から昭和館1階ロビーで整理券を配布

会場：九段会館 桐の間

○語り部の会

戦中・戦後の生活の様子を体験者の方々にお話しいただきます。

日時：平成21年8月22日（土） 14:00～16:00

会場：九段会館 瑠璃の間

○夏休み工作教室「絵手紙を描こう！」

日本絵手紙協会から講師を招き、小学生のための絵手紙教室を開催します。

日時：平成21年8月2日（日）、9日（日） 10:30～12:00

会場：昭和館3階会議室

○展示解説

日時：8月1日（土）、8日（土） 各14:00から45分程度

会場：昭和館3階特別企画展会場

【問い合わせ先】

昭和館学芸部 03-3222-2577

担当：渡邊・佐藤